

武村雅之  
Masayuki Takemura

復興百年誌  
復興百年誌

石碑が語る関東大震災

9月6日発売 3400円(予定)

ISBN 000-0-000-00000-0  
C0000 Y0000E  
9784306023444  
定価(本体0,000円+税)  
1923052038007

\* 震災の語り部\* 石碑を読む\* 刻まれた被害状況\* 復興  
立\* 市民による慰霊\* 巻にあふれる手紙\* 映死者供養\* 震災  
える\* 耐震建築への道\* 伝統水造建築と耐震\* 都市の復興\*  
ンボルを訪ねて\* 横須賀市 軍隊の足跡\* 農村の復興\* 被  
\* 石碑に見るインフラ復興\* 産業振興と課題\* 神社仏閣の復  
社の復興\* 寺院の復興\* 心の復興\* 感謝の気持ち\* 歴史を守  
育\* 歴史に学ぶ防災論\* 地震と震災\* 共助の条件\* 防災・減  
災への貴重な証言集

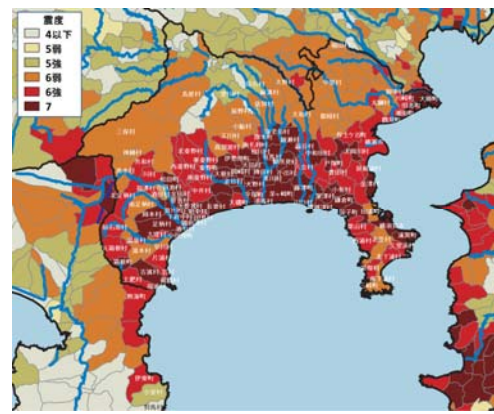
武村雅之  
Masayuki Takemura

主要目次

第一章 震災の語り部  
第二章 復興への始点  
第三章 震災から学ぶ  
第四章 都市の復興  
第五章 農村の復興  
第六章 神社仏閣の復興  
第七章 心の復興  
第八章 歴史に学ぶ防災論

石碑が語る  
関東大震災  
復興百年誌

データ (JSPS KAKENHI 25350496)

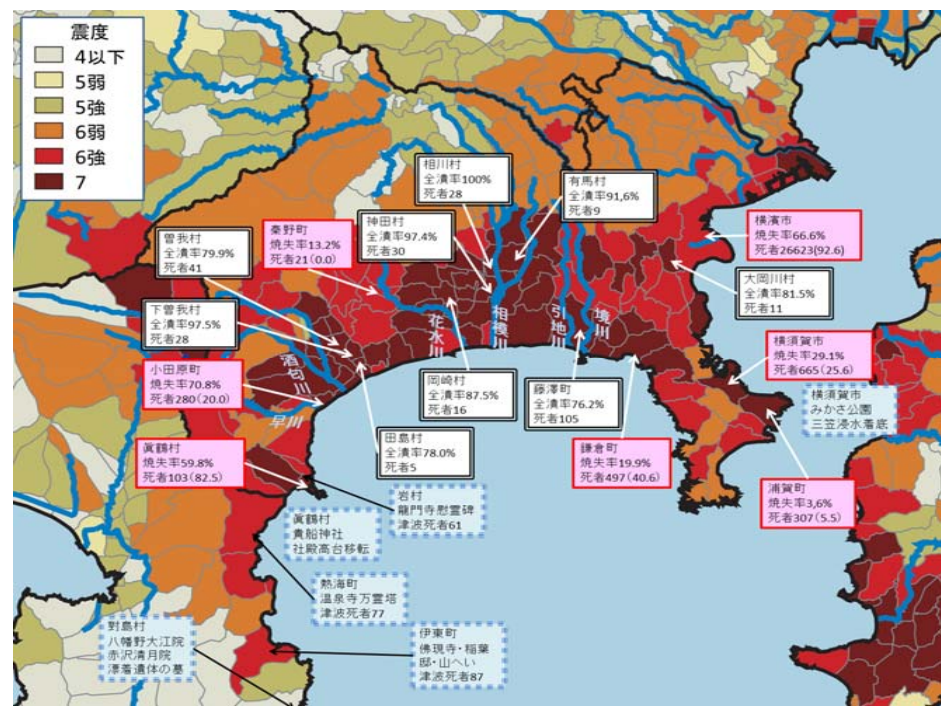


市町村	調査地点	震度	復興	エピソード	その他	消滅	他の災害など	合計
真鶴町	4	2	4					6
湯河原町	1			1				1
小田原市	26	9	18	6				53
箱根町	9	2	2	4	1			21
南足柄市	18	6	10	5				39
山北町	29	5	14	3		1		47
開成町	3			1				4
松田町	2			2	1			5
大井町	3			4				7
中井町	1			1	1			3
熱海市*	3	3		1				7
伊東市*	20	4	1	15				40
西部・伊豆	119	31	57	37	1	1		437
藤沢市	20	5	15	3		2		45
茅ヶ崎市	13	4	7	3				23
寒川町	6	2	2	2				12
平塚市	15	5	10	1		1		27
大磯町	10	2	6				3	19
二宮町	2			2				4
秦野市	9	5	4	3				19
伊勢原市	4	2	1	1				8
厚木市	12	6	6	2				26
海老名市	4	1	3					8
綾瀬市	3		3					6
大和市	1			3				4
相模原市	10	4	9					23
愛川町	1	3						4
中部	110	39	66	20	0	6	3	134
鎌倉市	57	5	82	17	2	1		164
逗子市	7		9	1				17
葉山町	3		1	1				5
三浦市	10	1	5	2				18
横須賀市	36	19	20	13	2	1		81
横浜市	82	58	23	11	25	3		182
川崎市	21	4	8	15				48
東部	228	87	128	60	29	5	21	333
全体合計	455	157	251	117	30	12	67	634

\*静岡県

第1章 震災の語り部  
(1) 石碑を読む  
復興碑／慰霊碑／頌徳碑／遺構  
(2) 刻まれた被害状況  
超震度7／火災／津波／地変／土砂災害

横浜市内の震災関連の石碑や遺構を例に、その特徴や意味するところを紹介し、次に石碑が語る県下の関東大震災を概観してみることにする。かつて各所が受けた被害の特徴を知ることは、その後の復興を考える上での第一歩だからである。





## 企業、団体や同業者による慰霊碑

No	団体・業種(所在地)	慰霊碑の所在地	死者数	慰霊碑名	建立年	西暦	建立者など
1	日本鋼管(田島村)	川崎市川崎区渡田3丁目	43	日本鋼管震災慰霊碑	大正12年12月	1923	降性和尚と日本鋼管関係者
2	東京電気(川崎町)	横浜市鶴見区鶴見2丁目	67	東芝震災供養塔	大正13年9月	1924	東京電気株式会社
3	富士紡織エッセ工場(保土ヶ谷町)	同 保土ヶ谷区上星川2丁目	454	関東大震災受難者之墓	昭和8年7月	1933	富士瓦斯紡織保土ヶ谷工場
4	相模紡績平塚工場(平塚町)	平塚市黒部丘	165	関東大震災殉難慰霊塔	昭和8年9月	1936	日本たばこ産業(JT)
5	純水館製糸場(茅ヶ崎町)	茅ヶ崎市本村4丁目	1	震災追善碑	大正14年3月	1925	従業員天木榮一郎の追善
6	勝珍樓(横浜市山下町)	横浜市中区大芝台	中華義荘	8	勝珍樓大震災殉難者慰霊碑	不明	勝珍樓(中華料理老舗)
7	権楽園(厚風浦村)	同 磯子4丁目	真言宗金蔵院	11	大震災犠牲者碑	昭和4年9月	権楽園主(7回忌)
8	ユナイテッドクラブ(横浜市山下町)	同 中区大芝台	蓮光寺墓地	25	大震災火災死者之墓(YUC)	不明	菊元優次郎、林増壽(共友会)
9	横浜地蔵(横浜市北仲通町)	同 中区日本大通	横浜地蔵	94	慰霊碑	昭和10年9月	裁判所関係者(13回忌)
10	横浜印刷業者	横浜西区赤門2丁目	真言宗東福寺	22	追悼碑	大正15年7月	横浜印刷業者(発起人6名)
11	横浜大工職	同 南区清水ヶ丘	臨濟宗回向院	-	大震災犠牲者諸精霊塔	大正13年9月	横浜大工職組合40名(1周忌)
12	横浜市婦人美髪師・洗業者	同 南区康台	浄土宗光明寺	-	震災火災犠牲者追善供養塔	大正13年7月	横浜女子美髪模範研究会10名
13	建設業関係者?	同 南区康台	浄土宗光明寺	-	追悼碑	大正13年9月	横溝豊吉など31名(1周忌)
14	横浜市毒理髪業	同 南区堀之内町1丁目	真言宗宝生寺	26	大正大震災火災犠牲者之碑	大正13年9月	毒理髪業組合32名(1周忌)
15	井土ヶ谷割縫業	同 港南区上大岡東3丁目	上大岡堂園	66	震災犠牲者之碑	昭和4年9月	井土ヶ谷割縫業組合12名(7回忌)
16	護国道場(大磯町)	大磯町大磯	日蓮宗妙輪寺	-	火災追善碑	不明	有村村太郎、護国道場から移設

死者数は原則碑文による。うち氏名が記載されているものはNo.5~10、14、15  
 文献より引用したものは『神奈川県下の震災火災と警察』(文庫13)がNo.2、4、『未曾有の大災害と地震学』(文庫6)がNo.3  
 死者数が分らないものは-



民家の庭先に立つ慰霊碑。横浜南区井土ヶ谷上町の赤羽邸



川崎市平間寺(川崎大師)にある納札追供養塚。

## 神奈川県下で見つけた震災による馬頭観世音の石碑

No	住所	所在地・関連施設	建立者	備考
1	横浜西区戸部町1丁目	羽沢稲荷神社	鈴木半兵衛ら12名	大正13年2月日建立
2	三浦市初声町高門坊	西端の高台農道脇	小林藤造	11基の石塔の一つ
3	山北町岸	小菅宅裏の畑の畦	小菅富治	現在撤去、寺で供養
4	山北町湯船	用沢北路傍	佐藤栄吉	12基並ぶうちの一つ
5	南足柄市関本	小宮正昭邸内	小宮菊次郎	
6	南足柄市塚原	塚原大神宮境内	高嶋初五郎	
7	小田原市上菅我	曹洞宗堂土寺付近	島居清	昭和19年9月建立

馬頭観音で命日が「大正12年9月1日」のもの(No.3は9月2日)



根岸外国人墓地にある横浜市建立の外国人震災慰霊碑と周辺にある震災犠牲者の墓標



横浜市港北区菊名5丁目の蓮勝寺にある犠牲となった朝鮮の人々に対する慰霊の場

## 第3章 震災から学ぶ

### (1) 地震に耐える

焦土に芽吹く／震度7に耐えた建物

### (2) 耐震建築への道

30年前の教訓／関東大震災に対する成績／耐震基準の成立

### コラム3 旧横浜正金銀行と火災

### (3) 伝統木造建築と耐震

木村新左衛門記念碑／古都鎌倉での成績／遅れた木造の耐震

震災は人々の心まで打ち砕くことはできなかった。緑に勇気づけられた人々は、さっそく廃墟に立つ建物に学び、復興を見据えて動き出した。本章では復興の章の始まりとして、耐震基準の成立過程とその問題点について考える。

## 横浜市において震災をくぐり抜けて現存する建物や橋梁

No	名称(創建当時)	場所	竣工年	設計者	構造形式	指定	震災火災の状況など
1	神奈川県立歴史博物館(横浜正金銀行本店)	南仲通5丁目	1904年(明治37)	妻木頼黄	石造(3階)(地下室付)	国指定重要文化財	震害僅少地下室を除き全壊(建設担当は遠藤於菟)
2	横浜三井物産1号館	日本大通	1911年(明治44)	遠藤於菟	RC造(4階)		震害僅少、全焼(日本初の全鉄筋コンクリート造)
3	横浜三井物産付属倉庫	(同上)	1910年(明治43)	遠藤於菟	煉瓦造(3階)(屋根、柱RC)		震害、火災被害なし(2015(平成27)年解体)
4	赤レンガ倉庫1号館	新港1丁目	1913年(大正2)	妻木頼黄	煉瓦造(3階)	横浜市歴史建造物	妻および中央部半壊、一部焼失
5	赤レンガ倉庫2号館	(同上)	1911年(明治44)	(同上)	(同上)	(同上)	被害僅少、火災被害無し
6	横浜開港記念会館	本町1丁目	1917年(大正6)	山田七五郎 佐藤四郎	煉瓦造(2階)(地下室付)	国指定重要文化財	震害ほとんどなし、地下室、塔を除く他は焼失(半壊)
7	ラバンクド・ロア(露亜銀行)	山下町	1921年(大正10)	バーナード・M・ウオード	RC造(3階)	横浜市有形文化財	震害僅少、全焼
8	松坂屋本館(野澤屋呉服店)	伊勢佐木町1丁目	1921年(大正10)	出浦高介(増築:鈴木換次)	RC造(4階)(張壁煉瓦造)	横浜市歴史建造物	沈下約5寸東南隅一部小亀裂、震害僅少全焼(昭和9年増築(7階)、平成20年、2008年解体)
9	日本興亜馬車道ビル(川崎銀行横浜支店)	弁天通5丁目	1922年(大正11)	矢野又吉	RC造(3階)(地下室付)	横浜市歴史建造物	震災火災被害ほとんどなし
10	新港橋	新港1・2丁目	1912年(大正元)	大蔵省臨時建設部	鋼ワーレントラス橋	横浜市歴史建造物	橋台・基礎部に被害、橋体異常なし(製造:浦賀船渠、国産)
11	港1、2号橋	新港2丁目	1909(明治42)	鉄道院	鋼トラス橋	横浜市歴史建造物	橋台・基礎部に大被害(製造:アメリカン・ブリッジ社)

## 横浜市における構造ごとの建物被害率

構造	全潰	半潰	僅少	全数	全半潰率
煉瓦造	98	27	35	160	78.1
S造	5	18	22	45	51.1
RC造	27	14	48	89	46.1

濃尾地震後にコンドルが主張する鋼材で煉瓦造を補強する構法の代表的なもの、のちに考案された旋回鉄橋法と呼ばれるもの

## 第4章 都市の復興

### (1) 横浜市－復興のシンボルを訪ねて

帝都復興事業／桜木町の存続問題／山下公園／復興橋梁／ホテルニューグランド

#### コラム4 90年語り継いだ日高帝さん

### (2) 横須賀市－軍隊の足跡

横須賀製鉄所から海軍工廠へ／戒厳令の一部適用／海軍の活動／陸軍の活動

関東大震災の特徴の一つは近代都市を地震が直撃したことである。横浜市では約2万7000名、横須賀市では約700名の犠牲者が出た。横浜市については帝都復興事業に焦点をあて、一方の横須賀市については軍の活動に焦点を絞って、それぞれのまちに現在も残る震災の跡をたどりつつ都市の復興を検証する。

## 戒厳令の一部適用

第8条に規定された緊急勅令をもって戒厳令の9条と14条を適用するようにしたので行政戒厳と呼ばれるものである。一部適用の意味もここにある。いずれも指定地域において9条は軍事に関する事件の司法権をその地の司令官に移す、第14条は警察や憲兵が持つ警察権を軍隊に与えるというものである。

9月2日 軍隊の派遣を頼み、東京市および隣接5郡で行政戒厳の適用に踏み切った。その時点で各地の衛戍地に駐屯する部隊はすでに救護活動に従事していたが、さらに治安出動にも従事することになった。

9月3日 政府は空からの情報で被災地を判断し、戒厳令の適用範囲を東京府ならびに神奈川県に広げた。同時に関東戒厳司令部が設置され、横須賀市および旧三浦郡のエリアに対しては横須賀鎮守府司令長官を戒厳司令官とし、その他地域に対しては関東戒厳司令官が務めることになった。

9月4日 戒厳令の適用範囲は埼玉県と千葉県へと拡大  
行政戒厳は、11月15日まで75日間続いた。

関東大震災における戒厳軍はもっぱら警備、救護、営造物の修理などを行い、国民の自由を拘束する権力を行使することはほとんどなく、国民の軍隊への支持を高めたが、一部軍人の犯罪行為が軍隊全体の評価に暗い影を落とす結果となった(吉田律人、2017)

## 陸軍の活動

- ・ 市中の消火
- ・ 避難民に対する避難所や食料の提供
- ・ 負傷者の救護
- ・ 朝鮮の人々の保護や警備
- ・ 市内における震災状況の調査
- ・ 道路の復旧工事など

陸軍の不入斗練兵場(現在の不入斗公園)には横須賀市で最多の1500人が避難した。さらには兵舎の一部を小学校の大部分と女学校に提供し、10月1日に授業を再開させるなど、市民生活に密着したさまざまな活動を迅速に行ったことがわかる。それを指揮したのが、当時の連隊長であった**荒城卓爾大佐**であった。

### 「誠心山之碑」(大正14年12月建立)

横須賀市坂本町1丁目の重砲兵連隊の跡地、桜小学校の校庭にある。

#### 荒城卓爾の訓示

今回の天災は第一次世界大戦後の世相が營利、奢侈、淫蕩、享楽に傾くことに対する天刑であるとし、生き残ったものは多くの犠牲者の死を無駄にすることがないように言行を改めることを説いている。その中で軍隊は率先して自らの身を謹み、市民の救護と秩序の維持に務めるよう述べている。



軍人が自らを律するために築いた「心字」の山が「誠心山」であった。また、構築に際して大震災後に整理のために生じた震災土壌を用いたのは、天意を忘れることがないようにとの考えからであろう。市民の救護と秩序の維持にあたっての当時の軍隊の姿勢がうかがえる。

## 第5章 農村の復興

### (1) 被災状況

震災当初の惨状／水害の多発／長引く影響

コラム5 富士山宝永噴火と酒匂川

### (2) 再生への道

村人の協力／耕地整理法／復興碑を読む／岩流瀬と用沢／文命用水と酒匂川用水

コラム6 御下賜金の配布

### (3) 石碑に見るインフラ復興

水神の碑／道路の復旧／港湾の整備

コラム7 豆相人車鉄道(熱海鉄道)の終焉

### (4) 産業振興と課題

農協のルーツを伝える頌徳碑／地震町と足柄茶／工業地帯の震災

罹災民への救援・救済は、郡役所が中心となって県などへ働きかけて、炊き出し米や飲料水の確保、さらには小屋掛けなどが行われることになっていた。(1899(明治32)年制定の罹災救助基金法)府県市による罹災救助基金で賄われ、不足分は国が補助(実際には義捐金が使われた)

# 土地改良制度の歴史

1899(明治32)年制定: **耕地整理法**制定

所有者が共同して交換分合などにより、分散所有地の集団化、一枚一枚の区画の正形化や広域化、さらには道路の直線化等によって耕作の便を改良するのが目的

1905(明治38)年には対象が灌漑排水事業に拡大

1909(明治42)年の改正: 単なる区画整理中心の事業から開墾を含めた広義の土地改良が主体となる(事業は土地所有者の共同施工から**耕地整理組合**という法人による施工へ  
1919(大正8)年には開墾助成法: 開墾、埋め立て、干拓と灌漑排水施設や道路堤塘の整備に助成金を交付する

1923(大正12)年、用排水改良事業補助要綱: **受益面積500町歩以上**の用排水幹線または設備の改良事業に対して50パーセント以内で**国庫補助**が行われるようになった。

## 復興碑から読める農地復興を担った関係者

復興碑	所在地	建立年	西暦	組合名	灌漑面積(町)	組合員数	起工(組合設立)	竣工年	総工事費(円)	公的補助(円)	各自負担(円)	補助率(%)	一戸当たり(円)	備考	
1	江之浦、耕地復旧記念碑	大業和神社(小田原市江之浦)	昭和5年6月	1930	江之浦	77	77	大正13年10月25日	昭和3年11月10日(御大典)	129717	64123	65594	49	852	補助金内訳: 県10196円、開墾助成金4928円、低利資金30000円 その他: 開墾助成法により40戸に8000円の家庭建築補助あり。
2	根府川、耕地復旧記念碑	寺山神社(小田原市根府川)	昭和16年7月	1941	根府川	151		大正13年10月	昭和3年8月	96000					
3	怒田、農地復旧記念碑	南足柄市怒田路傍	昭和2年7月	1927	怒田	22	67	大正14年11月	昭和2年4月	73000余	27832余	45168	38	674	補助金内訳: 県18532円、開墾助成金5300円、低利資金7000円
4	弘西寺塚碑	南足柄市野路傍(足柄神社近)	昭和3年2月	1928	弘西寺塚	26	66	大正13年2月	大正15年8月	80000					起工時に起債認可を得る
5	川入堰碑	南足柄市野路傍(野路原)	大正13年11月	1924	川入	12	56	大正13年11月	大正13年9月10日	58500					南足柄村と北足柄村にまたがる。北足柄村での主な復旧碑
6	北足柄村、震災復興碑	南足柄市内山路傍	大正15年6月	1926	内山	62	231	大正13年11月(工期3年) (村体の復旧工事)		63544					
					平山	38	102			47790					
					矢倉沢	32	85			49420					
					地蔵堂	7	25			19600					
					川入堰塘	5	29			30000					
7	用沢、不動塚の碑	山北町用沢北路傍	昭和9年10月	1934	用沢	5	49	昭和5年11月	昭和9年8月末	46800	23060	23740	49	484	補助金は県による
8	岩流瀬、震災復興碑	岩流瀬地蔵堂(山北町)	大正15年4月	1926	岩流瀬	66	254	大正13年3月27日	大正15年(主要工期3年)	70000余	49000余	21000	70	83	補助金内訳: 県30000円、低利資金19000円、各自負担に対しては開墾助成法交付金による利子補給あり
9	金子、耕地整理記念碑	大井町金子路傍	昭和11年11月	1936	金子(金田村)	190余		大正14年3月	昭和11年3月	129307	33890	95417	26		補助金は国による
10	笠塚渡瀬溝復興碑	市方神社(小田原市笠塚)	昭和3年9月	1928	笠塚・水尾等5部	60余		大正12年	大正14年6月	290000	163000余	127000	56		補助金は国から。昭和12年以降は箱根登山鉄道が発電利用で維持・管理
11	文命用水碑	福澤神社(南足柄市野路)	昭和11年7月	1936	清勾川右岸の野村	700		昭和3年7月	昭和8年3月	570000余	554000	16000余	97		補助金は国、県、発電事業者から。8ヶ年分一括・一括も付加する
12	清勾川用水碑	三角堤公園(松田町松田総領)	昭和12年5月	1937	清勾川左岸の野村	千数百		昭和7年12月	昭和12年3月	360000	270000	90000	75		補助金: 国180000円、県90000円(用排水改良事業補助適用)
13	金瀬川築堤碑	小田原市成田路傍	大正13年9月	1924	豊川村	100		大正12年3月	大正13年9月	20000					事業は大正3年4月から同4年8月で完成。堤防の震災復旧
14	豊塚塚記念碑	春日橋公園(戸塚区戸塚町)	大正14年8月	1925	戸塚野外二ヶ村	40		震災直後	大正14年2月	12000					事業は明治38年から8年間で完成(280町)。堤防の震災復旧。鉄道工事と協働助成を受ける

総工事費は5万~13万円(約3億~7億円)程度で、公的な補助(県補助金、開墾助成、低利融資等)の率は平均で50パーセント程度、地主一戸当りの負担額は、組合員数が多い岩流瀬堰以外では500円~900円(250万~450万円)となる。

## 岩流瀬堰耕地整理組合の場合

(地震による被害)

水路は原形をとどめない。応急措置として富士瓦斯紡績に協力を求め、取水口の開鑿をした。

(本格復旧): 耕地整理法の適用を受ける

11月30日: 安河内麻吉神奈川県知事に耕地整理測量設計願を申請

12月25日: 矢儀技師の出張を受けて耕地整理の説明を受ける

2月: に組合設立

県より佐藤技手が派遣され、設計書の作成指導

3月20日: 般若院で地主総会、満場一致で申請手続きを進める。

3月25日に認可、27日に起工

5月4日に幹線水路の通水を完了し、田植えに間に合う。

# 御下賜金の配布

9月3日：天皇陛下から1000万円(約500億円)の御下賜が閣議決定  
9月16日：配分基準が決定  
10月31日：罹災1府6県(東京都、神奈川県、千葉県、静岡県、埼玉県、山梨県、茨城県)への配分額と配分方法が決定

(鎌倉町の例)  
11月13日：鎌倉町長から町に御下賜金配布の通達あり(11月20日までに該当者を調べ回答せよ)  
11月17日：各区長に御下賜金拝受有資格者の調査を依頼、同時に各小学校長にも教員の調査支援の派遣を依頼して、調査が進められた。  
(11月15日は臨時震災救護事務局が全国一斉に行った避難民調査の日：御下賜金の配分調査が全国一斉避難民調査と呼ぶ?)  
11月24日：郡長が示した申告書が各区長を通じて被災者に交付された。  
11月30日：に郡長通達で鎌倉町への配当額は4万5764円と決定  
12月25日：4万5364円に減額されて町に届けられた。  
12月28日と29日に役場で第1回配布が行われた。

### 鎌倉町における予測と実績

#### 天皇陛下からの御下賜金の配分額

交付する被災の範囲	金額(円)	備考
死亡・行方不明者	16/人	震災地に居住か滞在
負傷者	4/人	1週間以上医師の治療
住宅全焼・全流失	12/世帯	
住宅全潰	8/世帯	震災地の世帯に限る
住宅半焼・半潰・半流失	4/世帯	

下賜金交付	死亡行方不明		全焼全流失		全潰		半焼半潰半流失		全被害戸数	支給件数合計
	予測	実績	予測	実績	予測	実績	予測	実績		
予測	219	287	368	865	1298	2531	3037			
実績	369	339	535	1181	1441	3157	3865			
被害数	412	—	564	1455	1551	3570				
交付率(%)など	90	—	95	81	93	85*	79**			

\*全戸数4183戸うち被害数3570戸、85%の被災率  
\*\*支給予測値は実績の79%

## 第6章 神社仏閣の復興

### (1) 国宝の復興

建長寺と円覚寺／鎌倉大仏／鶴岡八幡宮一の鳥居／鎌倉国宝館

### (2) 神社の復興

畏敬の念／復興の費用／鳥居の再建／モニュメントになる倒壊鳥居  
コラム8 鳥居が語るエピソード

### (3) 寺院の復興

戮力協心／復興の費用／今も続く復興／墓碑に住職の奮闘を偲ぶ  
コラム9 お寺に伝わるエピソード

1897(明治30)年の古社寺保存法で、国宝と特別保護建造物には国庫から保存金。一般の神社や寺院では、一部の神社には県などから補助があったようであるが、氏子や檀家など住民の支えが主体であることは今日とそれほど変わらない。

社格(1946(昭和21)年時点)  
神社数は全国で約11万社、無格社が約6万社、村社が約4万5千社、郷社が約3600社、官社と府県社は残り1400社ほど。(神奈川県での官社は鎌倉宮、寒川神社、鶴岡八幡宮、箱根神社の4社のみ)

## 復興碑から読める神社と寺院の復興費用

神社の復興碑													
No.	所在地	住所	碑名・出典	建立年	西暦	主な対象	総工費(円)	寺院掛(円)	寄付金(円)			備考	
							総額	最高	平均	寄付者数			
1	三島神社	小田原市千代	震災復興記念碑	昭和4年10月	1929	社殿・神輿	3533		3533	53	44	81	
2	宗我神社	小田原市菅原谷津	神社のしほり	昭和3年	1928	社殿	16000		16000		50	320	人数は鳥居復旧碑の氏子数から算出
3	岸八幡神社	山北町岸	社殿改築記念碑	大正15年4月	1926	社殿・石垣	2720余	106	12088	1600	44	275	前の工事に数千円、復興工員2720名、鳥居の復興補助108円(震災誌)
4	富生神社	山北町山北	川村震災記念碑	大正15年6月	1926	社殿など全壊	39356	1098	38258		50	760	氏子学費提供1000名(震災誌)
5	正八幡神社	妻野市堀山下	震災復旧記念碑	大正15年2月	1926	不明	1917		1917	100	5	389	碑の厚料により194人から推定
6	小田原野神社	茅ヶ崎市小和田2丁目	大震災碑	昭和5年8月	1930	神楽殿・鳥居	4534		4534	300	12	364	
7	山殿神社	厚木市山殿	社殿移転記念碑	大正14年9月	1925	社殿移転	6700		6700				
8	上野原鳥居神社	神奈川市南区上野原本町	神社再建記念碑	昭和3年11月	1928	神社再建	8917		8917	330	58	154	
9	日頃川羽神社	藤沢市片瀬3丁目	延徳神の碑	昭和5年8月	1928	社殿・鳥居	5737	1231	4566	200	19	240	公的補助は神奈川県から交付
10	大塚神社	鎌倉市稲荷	復興碑	昭和2年9月	1927	社殿再建	10900		10443	380	32	327	他に墓など物の奉納14人
11	亀井神社	鎌倉市亀井野	大震災復興記念碑	昭和10年4月	1935	社殿・石垣	5300		5300		30	174	
12	諏訪大神社	横須賀市緑が丘	大震災記念碑	大正15年5月	1926	社殿・社務所	18000		11891	2316	1189	10	町平均、工費寄付18000円(震災誌)
13	金刀比羅大神社	横浜市南区真金町	三社復興碑	大正13年6月	1924	境内三社殿	1645		1645	100	28	59	他に公孫樹奉納1人
14	橘根神社	横浜市長ヶ谷区天王町	震災復興記念碑	昭和5年9月	1935	社殿再建	25000	3953	21047				公的補助は神奈川県から交付
寺院の復興碑													
No.	所在地	住所	碑名・出典	建立年	西暦	主な対象	総工費(円)	寺院掛(円)	寄付金(円)			備考	
							総額	最高	平均	寄付者数			
15	浄土宗光院	小田原市鶴岡	堂宇新築記念碑	昭和10年8月	1935	本堂など	17000		17000	121	140	140	檀信後援金提供1000名
16	普洞宗善業寺	山北町向原	震災復興費	大正15年9月	1926	移転復興	8000	3000	5000		161	31	寺島担38%、檀信後援金提供のべ800名、鳥居の移設工事に475名
17	普洞宗大寺院	妻野市今泉	本堂再建碑	昭和4年12月	1929	本堂	8548	200	8348	180	36	234	寺島担2%、労働提供のべ245名
18	真言宗蓮福寺	鎌倉市腰越2丁目	復興記念碑	昭和7年5月	1932	本堂	4130		4130	100	46	70	ほかに檀信後援者1人
19	鎌倉宗海蔵寺	鎌倉市扇が谷4丁目	復興碑	昭和5年7月	1930	本堂	9920	1500	8420	300	107	99	寺島担15%
20	臨濟宗建長寺	鎌倉市山ノ内	仏殿再建記念碑	大正15年5月	1926	仏殿・庫裏	50500	7966					寺島担16%、檀信に補助42534円
21	臨濟宗円応寺	鎌倉市山ノ内	震災復興碑	(不明)		一般の仏像	2500		2500				小泉三申氏が全額寄付

総工費について碑文に記載がない場合(No.1, 5, 6, 8, 9, 13, 17, 18, 19)は、寄付金と公的補助金の合計額を総工費とする

指定村社(神饌幣帛料供進社)以上の一部に県から補助(総工費の20%程度)

(神社) 総工費は3000円から4万円(1500万円から2億円)まで様々であるが、氏子の平均の寄付額は一部例外を除くと20円から60円(10万円から30万円)程度である。

(寺院) 檀信徒の寄付平均40円から120円(20万円から60万円)

神社の氏子数のほうが寺院の檀信徒数よりも総じて多い。記念碑の建立時期は神社のほうがやや早い?

## 第7章 心の復興

### (1) 感謝の気持ち

命をつなぐ／神仏への感謝／祭礼の復旧

### コラム10 平塚復興講

### (2) 歴史を守り伝える

小田原城／史跡の復旧／市井の石仏／頌徳碑の復旧

### コラム11 松下の誓い

### (3) 反省と教育

学校にある震災の碑／国民精神作興詔書／天譴論／大和小学校のイチヨウ

### コラム12 児童救済の足跡

1914(大正3)年から始まった第一次世界大戦の影響で膨大な利を得、世の中には一夜にして大金持ちとなつたいわゆる成金があふれた。⇒震災後の「天譴論」

一方、九死に一生を得て感謝、避難できて感謝、震災後に飲み水を与えてくれた泉に感謝、被害が軽微だったことに感謝、感謝の対象は救援してくれた人々にはもちろん、多くは神仏にも向けられた。⇒身の回りで倒壊した石碑や石仏の復旧や、祭礼に使う神輿や船などの復活⇒人々の復興への気持ちを支えた?

利己心が少ないからこそ感謝の気持ちが出し、感謝の気持ちから希望が芽生える。関東大震災の復興は感謝と希望から始まったようで、不満と絶望からでは復興を成し遂げることができなかったかもしれない。